

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：32701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02778

研究課題名（和文）ユネスコ・エコパーク圏におけるESD促進のための問題基盤型学習の開発

研究課題名（英文）Development of Problem-Based Learning for ESD Promotion in UNESCO Eco-Park Areas

研究代表者

小玉 敏也（KODAMA, Toshiya）

麻布大学・生命・環境科学部・教授

研究者番号：60632213

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、2点ある。第1に、ユネスコエコパーク圏にある学校と市教委及び市役所担当課の協働体制について自治体ごとの特徴を把握し、特に単独自治体運営型のエコパーク圏におけるESDの促進要因を事業担当者の言説から明らかにできたことである。第2に、長野県飯田市遠山地区（南アルプスエコパーク圏）の学校と地域をフィールドに、多様なステークホルダーが参画したESDへのアクションリサーチを通して、中山間地における協働的ESDに係る一モデルを提案できたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、「ユネスコ・エコパーク圏におけるESDの促進」に学術的な側面から貢献できたことである。同圏の学校は、ESD促進に有利な条件（地域資源の豊富さ、体験活動の量、地域との密接な連携等）を生かしつつ、該当地域固有の課題（教育施策、住民の理解、各種人材の確保、予算措置等）を解決していければ、ESDの「質」を担保しながら継続できることを明らかにした。教科教育学では、授業や教育課程を研究対象にしがちであるが、ホールスクールアプローチが求められるESDの特質から、その下部構造の分析を行なった点に学術的/社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are twofold. First, we were able to grasp the characteristics of each municipality in terms of the cooperative framework between schools, municipal boards of education, and city hall divisions in UNESCO eco-park areas, and to clarify the factors promoting ESD, especially in eco-park areas operated by a single municipality, based on the discourse of those in charge of the project. Secondly, we were able to propose a model for collaborative ESD in mountainous areas through action research on ESD with the participation of various stakeholders in schools and communities in the Toyama area of Iida City, Nagano Prefecture (Southern Alps Eco-Park Area).

研究分野：教科教育学及び初等中等教育学関連

キーワード：ESD 総合的な学習の時間 学校と地域の連携・協働 ユネスコ・エコパーク

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今次の学習指導要領には、「持続可能な社会の創り手を育てる」との文言が明記されたことから、持続可能な開発のための教育(ESD)に取り組むユネスコスクール加盟校の役割は益々重要になる。これまで多くの加盟校では、各教科と領域の関連指導、地域資源の教材化、地域での行動のあり方等の研究課題に取り組んで貴重な実践を展開してきた。

ESDは、ユネスコ人間と生物圏(Man and Biosphere)戦略2015-2025(MAB戦略)に基づいた生物圏保存地域(エコパーク)という枠組みの中でも実行を求められている。その目標は、生物多様性の保全と生態系サービスの回復及び強化、生物圏と調和のとれた持続可能な社会、経済及び繁栄する人間居住の構築、持続可能な開発のための教育(ESD)並びに能力向上の促進、気候変動や地球環境の変化への適応及び緩和への支援を、登録された地域圏で実現していくものである。日本では、志賀高原、白山、大台ヶ原・大峰山・大杉谷、屋久島・口永良部島、綾、只見、南アルプス、祖母・傾・大崩、みなかみ、甲武信の計10地域があり、当該自治体を中心とした多様な事業を始めている。このうち6地域にユネスコスクール加盟校があり、地域の持続可能性に係る問題(人口減少・高齢化、自然災害の増加、地場産業・伝統文化の衰退等)を授業化している点に、都市圏のESDには見られない特長がある。しかしエコパークは、自治体を中心として推進されてきた経緯から、学校でのESDと結びつけて認知されてこなかったという背景がある。

そこでは、エコパークを主導する行政とユネスコスクール加盟校がどのような連携体制の下で教育活動を行なっているか、エコパーク圏でのESDにどのような教育課程及び授業実践の課題があるか、という点が明らかになっていない。つまり、MAB戦略目標の枠組みからESDを評価する研究は、発展の可能性があるにもかかわらず、基礎的な実態調査も行われていない状況にあると言える。したがって、エコパーク圏におけるESD研究は、有機的な連携体制を構築しつつ学校を拠点とした地域ぐるみのESDを促進していく上で、新しく開拓すべき領域となり得ると考えた。

2. 研究の目的

1)エコパーク圏における自治体とユネスコスクール加盟校の連携の実態を調査し、協働的な体制を構築するための要因を明らかにする。

2)同圏の加盟校の教育課程と教育活動の実態を調査し、教科と領域の関連指導との観点から質の高いESDを促進するための課題を抽出する。

3. 研究の方法

エコパーク圏の学校と自治体への実態調査：対象の学校と自治体を訪問して教育行政資料及び学校関連資料を収集し、その実態についてヒアリングする。

エコパーク圏のユネスコスクール加盟校の教育課程と教育活動の分析：対象の学校の生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育課程と教育活動の実態を分析し、アクションリサーチの方法で、エコパークの特質を活かした教育活動のあり方を提案し、協働で実践していく。

地域への研究成果の還元：上記で得た知見を、地域関係者(市教委、社会教育関係者、地域住民等)に逐次公表し、フィードバックを得ながら研究を進める。

4. 研究成果

本研究の成果は、2点ある。

第1に、ユネスコエコパーク圏にある学校と市教委及び市役所担当課の協働体制について自治体ごとの特徴を把握し、特に単独自治体運営型のエコパーク圏におけるESDの促進要因を事業担当者の言説から明らかにできたことである。この成果の詳細は、福島県只見町、群馬県みなかみ町、宮城県綾町の教育関係者の協力を得て、学術誌『環境教育』に投稿中である。複数自治体運営型のエコパーク圏に、本研究の知見をそのまま適用することは難しいが、同圏のESD促進に学術的なアプローチを試みた先進的な研究になったと考える。

第2に、長野県飯田市遠山地区(南アルプスエコパーク圏)の学校と地域をフィールドに、多様なステークホルダーが参画したESDへのアクションリサーチを通して、中山間地における協働的ESDに係る一モデルを提案できたことである。これは、学術誌『環境教育』第32巻第3号に掲載され、当該地域の講演会や教員研修会、さらに日本学会の学術フォーラムでも発表し、幅広い市民に公開することができた。

本研究は、当初「問題基盤型学習の開発」という授業方法の試行に重点を置いた研究だったが、新型コロナウイルス感染問題の影響で、当該学校との協力が十分にできず、当初の目的を変更せざるを得なかった。しかし、ダメージを受けた学校(長野県飯田市遠山地区)と地域のESDをどのように復興させるかという新たな課題に立ち迎えたことは、今後のESD研究を深める意味で意義ある活動であったと考える。また、本研究はエコパーク圏という中山間地域の学校におけるESDに寄与する研究であったが、地域資源の活用とホールスクールアプローチの観点からは、都市部の学

校のESD推進に貢献できる研究となったと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小玉敏也	4. 巻 116
2. 論文標題 「小さな学校」における拡張的学校づくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小玉敏也	4. 巻 808
2. 論文標題 SDGsは教育を変える羅針盤	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 埼玉教育第6号	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KODAMA Toshiya, MASUDA Naohiro, TABIRAKI Kantaro, ASAOKA Yukihiro, ABE Osamu	4. 巻 32
2. 論文標題 On the Possibility of Collaborative ESD Activities between Schools and Local Communities with Emphasis on "Local Sustainability"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Environmental Education	6. 最初と最後の頁 3_6 ~ 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5647/jsoee.2218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浅岡永理・小玉敏也	4. 巻 18
2. 論文標題 ユネスコスクールでの「生物多様性」に関する教育の分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本環境教育学会関東支部年報	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小玉敏也・阿部治
2. 発表標題 エコパーク圏にあるユネスコスクールの活動の実態
3. 学会等名 日本環境教育学会第32回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉敏也
2. 発表標題 日本推動学校永続発展（ESD）之実践
3. 学会等名 新世代環境教育発展NEED台国環境議題線上系列講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉敏也
2. 発表標題 地域の持続可能性に向き合う学校ESD
3. 学会等名 羅臼町ESD研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉敏也
2. 発表標題 学校と地域社会の連携による地域づくりの実践：飯田市遠山郷の実践
3. 学会等名 公開ワークショップ『Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉敏也・阿部治
2. 発表標題 遠山郷に遠山郷における学校と地域が協働したESDの推進(2)
3. 学会等名 日本ESD学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉敏也
2. 発表標題 ESD在日本學習指導綱領中的定位及學校實踐ESD的重點
3. 学会等名 中華民國環境教育學會(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小玉敏也
2. 発表標題 創建永續發展教育(ESD)的課程—日本的中小學事例
3. 学会等名 台灣教材研究發展學會(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔圖書〕 計3件

1. 著者名 荻原 彰、小玉 敏也、阿部 治、朝岡 幸彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 218
3. 書名 SDGs時代の教育：社会変革のためのESD	

1. 著者名 小学校におけるSDGsの取組の視点と方策	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 136
3. 書名 新教育ライブラリーPremier Vol.1: SDGsで変えるこれからの学び	

1. 著者名 小玉 敏也、金馬 国晴、岩本 泰	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 200
3. 書名 総合的な学習 / 探究の時間	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	阿部 治 (ABE Osamu) (60184206)	立教大学・社会学部・特定課題研究員 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------